



ピースボート 第9回 ヒバクシャ地球一周 証言の航海 *9th Global Voyage for a Nuclear-Free World*



プロジェクトの趣旨

世代と国境をこえた継承——核兵器の禁止へ

第二次世界大戦終結から70年が経過し、被爆者の平均年齢は80歳をこえました。原爆や戦争の記憶は薄れ、日本では戦争を肯定するような言論や新たな軍事化の動きさえ出てきました。危険な核の拡散も進んでいます。

その一方で、核兵器の非人道性に対する国際的な関心は高まっています。核をもたない国々が主導して、核兵器を禁止しようという大きな潮流が生まれています。広島・長崎そして福島を経験した日本の私たちが世界に向けて発信し行動することが、この流れをさらに強くするはずです。

ピースボートはこれまで、160名の被爆者の方々と「証言の航海」を行ってきました。2016年8月に出航する第9回の航海に参加する被爆者の方々を募集します。あわせて被爆二世や継承者、若い世代の参加者も広く募集します。語り部の先人たちに学びながら、世代と国境をこえてバトンをつなぎ、次世代に続く流れを築いていきたいと思えます。意欲ある方々のご応募をお待ちしています。

2016年2月
国際交流NGO ピースボート



募集の概要

地球一周の船旅の中で、被爆体験の証言等を通じて核兵器の惨禍の実相を広く世界に伝え、次世代に継承すると共に、核なき世界の実現を呼びかけていく以下の方々を募集します。

■被爆者(約5名)

ご自分の被爆体験を語り、他のプロジェクト参加者と協力して、被爆の実相を日本と世界の人びとに伝えていくことができる方。

【同行者について】参加被爆者と旅を共にしつつ船上での生活面のサポートをできるお孫さん(被爆三世)や配偶者など「同行者」を歓迎します。(同行者には参加にあたり「同行者料金」が適用されます。詳しくは別途お問い合わせください。)

■被爆二世および継承者(若干名)

被爆体験や記憶はないが、親からの聞き取りや一定の研修を経て伝承、継承する知識と経験を有する方。年齢は問いません。「継承者」は被爆二世である必要はありません。

■ユース特使(若干名)

地球一周の寄港地および船内で、参加被爆者らと協力し、核と平和の問題への関心を高めるために次のいずれかの活動に従事できる30歳以下の方。

(A)レポーターとして本プロジェクトを対外的に発信する活動

(B)イベントを企画し実施する活動

- ・ 詳しくは、それぞれの募集要項をご覧ください。
- ・ 寄港地プログラムにかかる実費(約20万円)、ビザ、保険その他諸経費は自己負担となります。
- ・ 乗船前に行われるオリエンテーションや、下船後の報告会などにも参加していただきます。
- ・ プロジェクト参加者は、一定の研修を経た上で「非核特使」あるいは「ユース非核特使」の申請を、それぞれ日本政府に行うものとします。

応募締切:2016年4月20日(水)必着 / 発表時期:2016年5月中旬

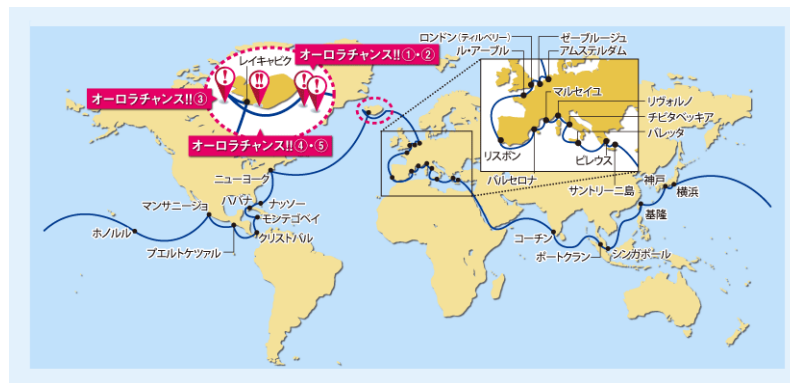
船旅の概要

クルーズ 第9回ピースボート 地球一周の船旅

期 間 2016年8月18日(木)～11月29日(火) (横浜発着104日間)

寄 港 地 21カ国25寄港地

台湾(基隆) / シンガポール / マレーシア(ポートクラン) / インド(コーチン) / ギリシャ(サントリーニ島) / ギリシャ(ピレウス) / マルタ(バレッタ) / イタリア(チビタベッキア) / イタリア(リヴォルノ) / フランス(マルセイユ) / スペイン(バルセロナ) / ポルトガル(リスボン) / フランス(ル・アーブル) / イギリス(ロンドン) / ベルギー(ゼーブルーージュ) / オランダ(アムステルダム) / アイランド(レイキャビク) / 米国(ニューヨーク) / バハマ(ナッソー) / キューバ(ハバナ) / ジャマイカ(モンテゴベイ) / パナマ(クリストバル) / グアテマラ(プエルトケツァル) / メキシコ(マンサニージョ) / ハワイ(ホノルル)



旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス
〒169-0075 新宿区高田馬場1-32-13 マリンビル2F Tel 03(5287)3081 Fax 03(5287)3083
観光庁長官登録旅行業第617号 (社) 日本旅行業協会正会員 <http://www.japangrace.com>

寄港地や訪問先での活動(一例)

■核保有国での被爆証言活動

- インド (コーチン 9月3日寄港)
- フランス (マルセイユ (9月24日)、ル・アーブル (10月1～2日) 寄港)
- イギリス (ロンドン (ティルベリー) 10月3～4日寄港)
- 米国 (ニューヨーク (10月20～21日)、ホノルル (11月17～18日) 寄港)

■核兵器禁止条約へのアピール

- 核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) や平和首長会議と協力して、寄港する先々で核兵器の非人道性を訴え、核兵器禁止条約の交渉開始に向けた働きかけを行います。
- レーガン米大統領とゴルバチョフ・ソ連書記長が「核兵器の全廃」を議論した歴史的なサミットから30周年を迎えるレイキャビク (アイスランド) を訪れ (10月11～13日)、記念行事を行います。
- 国連総会第一委員会開催中のニューヨークに寄港 (10月20～21日) し、核兵器禁止条約の交渉開始を訴えます。
- 2015年7月に歴史的な国交回復を果たした米国 (10月20～21日、ニューヨーク) とキューバ (10月26～27日、ハバナ) 双方を訪問し国際協力と平和の大切さを訴えます。

■原子力に頼らない社会をめざして

- ヨーロッパを中心に、原発からの脱却や自然エネルギーの促進について世界の取り組みを学びます。広島・長崎そして福島の実験や教訓について伝えていきます。

船内での活動(一例)

証言の集い、原爆写真ポスター展、戦争体験を考えるイベント、ワークショップ。世界の核問題を学ぶ企画、乗船する各国の学生との交流・意見交換会などを通じて現在の核問題について考えます。また世界の戦争や暴力、貧困問題などに触れ、今日の日本と比較しながら、自分たちにできることを考えます。世代や国境をこえて人々の関心を高めるための表現方法を工夫します。
※ユース特使には、こうした船内イベントを企画したり、レポーターとして発信したりすることを期待しています。

これまでに船旅に参加した被爆者とユースからのメッセージ



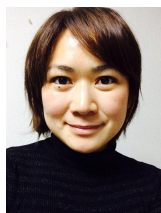
服部道子さん(広島被爆、当時16歳)

私は85歳にして初めてパスポートを取得し証言の航海に参加しました。世界各地で「被爆者と出会って初めて写真や文献では決して理解しえない原爆の威力、被害の実相を知ることが出来た」と言っていたと、あらためて活動の意義を感じました。共に旅する若者たちが新しい感覚で継承に取り組んでいる様子も頼もしいです。今、勇気をもって一緒に声をあげていきましょう！



三宅信雄さん(広島被爆、当時16歳)

私たちの被爆体験は70年前のことですが、核問題は正に今の課題です。被爆者がだんだん亡くなっていく中で、核兵器の非人道性を後世の人に共有してもらうことは急務です。そのために、一つの船の中で寝食を共にしながらのピースボートの旅はまたとない機会です。若い人たちは私たちの話を真剣に受け止め、核兵器の廃絶に向けて一緒になって行動してくれることと信じます。



浜田あゆみさん(高知出身、役者)

私は役者という立場を活かして、被爆者の証言や原爆の被害の実相のほかにも、現代に繋がる問題や若者が抱える問題をテーマにして多様な演劇を制作しました。世界をどのように自分たちの望む世界に変えていけるのか真剣に考え、実行することが出来ました。これは、私たちユースの特権であり、最高にやりがいを感じることの出来る活動です。



ピースボート



〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

Tel 03(3363)7561 Fax 03(3363)7562

<http://www.peaceboat.org/projects/hibakusha>

<http://ameblo.jp/hibakushaglobal>

ピースボート 第9回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」

後援(申請中)

広島市 / 長崎市 / 平和首長会議 / 日本原水爆被害者団体協議会
公益財団法人広島平和文化センター / 公益財団法人長崎平和推進協会